下呂農林事務所の普及活動状況　令和６年８月３１日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■新規就農者　関係者で就農状況を確認

【就農状況確認の様子】

下呂市では、８月２日から順次、過去10年間に新規就農し、国の農業次世代人材投資事業や新規就農者育成総合対策の交付を受けている35名の就農状況確認を現地ほ場で行っており、ＪＡ、農林事務所の担当者も出席しました。

まず、市担当者から現在の経営状況や労働力確保などの状況、困っていること、将来目指したい姿などを聞き取りし、出席者で意見交換を行いました。

精力的に営農、経営改善に取組む生産者がほとんどであったが、一部トマトの単収が低く、就農計画の目標と乖離がある生産者もあり、各生産者が抱える課題や目標を関係者で共有することができました。また、就農５年目の生産者に対しては、次なるステップとなる認定農業者への意向を聞き取り、今後の対応を確認しました。

農業普及課では、今回得られた情報に基づき、今後も関係機関と連携しながら、新規就農者の早期経営確立に向け、伴走支援をしていきます。

（地域支援係）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲（きぬむすめ）　実証ほ現地検討会を開催

【現地検討会の様子】

水稲では、夏の気温上昇に伴う高温障害により、米の品質低下が懸念されることから、農業普及課では、高温障害が少なく、良食味が期待できる品種「きぬむすめ」の現地実証ほを設置し、この地域に適した栽培体系の検討を進めています。

８月 30 日には、下呂市萩原町野上地区の実証ほ場において、生産者や関係機関の担当者 11 名が参加し、現地検討会を開催しました。

田植時期の異なるほ場での生育の違いや、堆肥の施用条件が異なるほ場での生育状況について、実際のほ場を見ながら検討を行いました。

出席者からは、「今年は気温が高く、成熟期が早まると予想されるので、適期を逃さず収穫することが重要。」「安定した収量を確保するには、田植時期について更に検討する必要がある。」などの意見が出されました。

今後、農業普及課では、実証ほにおける収量や玄米品質、食味の調査を行い、この地域に適した栽培体系を確立するとともに、「きぬむすめ」の地域への導入・普及に向けた取組みを進めていきます。

（地域支援係）

■飛騨小坂あぶらえ生産組合　エゴマの視察研修会を開催

【ほ場視察の様子】

８月 30 日に、下呂市におけるエゴマの生産・販売促進を図ることを目的に、同市小坂町の飛騨小坂あぶらえ生産組合を対象にしたエゴマの生産・販売等に係る視察研修会を開催しました。

当組合では、これまで生産したエゴマを主に油に加工して販売してきましたが、売れ行きが伸び悩んでおり、油以外の商品の販売も含め、エゴマの販売方法を模索しているところです。

本研修会では、恵那市上矢作町でエゴマの生産・販売を行っている（株）クリエイティブファーマーズ（石川代表）を訪問し、栽培状況を視察するとともに、エゴマの販売戦略などについての意見交換を行いました。

エゴマのほ場では、石川代表から生育状況や栽培上工夫している点、実単収などの説明がありました。また、意見交換では、エゴマの油以外の商品と売れ筋商品の紹介や地域の農業者などと連携した商品づくりな

どの取組みについても説明がありました。

視察に参加した組合員からは、「油は１瓶だと単価が高くなってしまうので、少量にして単価を下げないと売れないのは同じだ。エゴマを使った五平餅の新たな販売のヒントとなった。初めての他産地視察だったので学ぶことが多かった。」などの意見がありました。

農業普及課では、今後もエゴマの生産・販売促進につながる情報や機会を提供し、エゴマの生産・販売を支援していきます。（地域支援係）